



# 「巡検」の方法と展開

## —その1 「巡検」の意義と活用—

元全国中学校社会科教育研究会会長 赤坂 寅夫



【質問】「巡検」にはどのような意義があるか、また、巡検をどのように行うべきか、教えてください。

### その一 「巡検」とは？ —野外調査(フィールドワーク)との違い—

「巡検」とは、地理学や地質学では、実地調査、現地調査といった意味で使われます。具体的には、対象とするいろいろな場所を巡ってその地域的事象・特色を見聞きし、客観的な情報・資料を得る活動とされています。私が大学時代の地理の授業や若い教員の頃には、区市の社会科教育研究会で先輩の先生から誘われて「〇〇巡検」に参加し見聞を広めたものです。この当時の地理学辞典では「巡検という場合には、指導者または案内者が中心となって現地に赴き、地理的事象の観察・観測や、現地住民からの聴き取りに習熟させるか、それらについて案内者を中心として現地討議を行なう場合を指す。研究者自らが、自己の研究のために行なう野外調査とは、この点で区別される。」<sup>\*1</sup>と定義されていました。時代を経るにつれ、地理教育におけるフィールドワークの重要性が高まり、最近では「指導者が中心となって現地におもむき、説明・観察・計測を行う巡検や図書館や関係機関における文献・統計資料等の収集、「社会科見学」や農業体験などもフィールドワークの範疇に含まれる」<sup>\*2</sup>（下線は筆者）とされ、巡検はフィールドワークの一部ととらえられるようになりました。このように巡検とフィールドワークという言葉は厳密には異なるのですが、現在はほぼ同義ととらえられています。現行の『中学校学習

指導要領解説 社会編』では、C(1)「地域調査の手法」において「この中項目では文献調査にとどまらず実際に校外に出かけて観察や野外調査をして、地理的な事象を見だし、事象間の関連の発見過程を体験し、地理的な追究の面白さを実感できる作業的で具体的な体験を伴う学習を通して、地域調査の手法について理解し、地域調査に関わる地理的技能を身に付けることが大切である。」（下線、太字は筆者）と示されています。現地に出かけ事象を観察し、「作業的で具体的な体験を伴う学習」を行うことは社会科学習において欠かせないものです。本稿では、生徒が主体的に調査を行うフィールドワークの前段階として、案内者が中心となり現地での観察を行う「巡検」について、紹介します。

#### ポイント①



巡検は、現地での観察を重視する活動

### その二 「巡検」の意義

現地での観察を中心とする巡検は、以下のよ  
うな教育的意義が挙げられます<sup>\*3</sup>。

- ①地域の地形などの自然的諸事象、社会的・歴史的諸事象を現地で直接観察し体験することにより、五感を通した直感的理解ができる。
- ②地域の諸事象は、自然、社会、歴史とそれぞれ分離独立した事象ではなく、関連的・総合的に存在するものである。現地での直観や体験は、物事を総合的・関連的にとらえる場となり、そのことによって総合的・関連的思考力を養う機会となる。
- ③地形図等の地図を活用することにより、地域の実態が地図上でどのように表現・表示されているかを確認することで読図力が育成されるとともに、観察

したことを地図上に表現することで作図力も育成される。

④巡検の事前、実施中、事後の過程における資料の収集、資料の整理、地図化などの作業を通して、資料活用能力が育成される。

⑤目の前の事象・景観を自分の目で観察することによって、地域・社会に対する好奇心・探究心が涵養され、地域への愛着心をもつことができる。

これまで社会科教育研究会や地理教育研究会等でさまざまな巡検の実践研究発表を見聞きしてきましたが、上記の成果にとどまらず、近年は巡検によって事象の分析力や主体的に学ぼうとする力が育成され、ひいては主体的な地域調査の充実につながり、表現力や地域への発信力、地域住民としての参画意識が醸成された事例が多く見られます。

#### ポイント②



**巡検の成果が、主体的な地域調査の学習につながる**

### その三 「巡検」実施上の課題と工夫

巡検実施上の課題としては、実施時間の確保、時間割の調整、生徒指導上・安全上の問題、複数の引率教員、地域内に適切な事象が見当たらない、巡検の経験のなさなどが考えられます。これらのことは「身近な地域の調査」の学習においても考えられる課題であり、これまでも多くの先生方から出されてきた意見です。しかし前述した巡検の教育的効果を考えると、さまざまな工夫を凝らして実施したいものです。実際、巡検や地域調査を実施している学校ではさまざまな努力と工夫で実践されています。例えば次のような工夫です。

#### A 「総合的な学習の時間」として実施

「総合的な学習の時間」は、学年チームの教員の協働で行われるため、前述したカリキュラム上、学校運営上、引率指導等の課題がクリアできます。この場合、巡検後に生徒主体の地域

調査の活動も組み入れることで、地理的な見方・考え方、地理的技能の育成もさることながら地域への愛着が生まれることは、前号の「トラの巻⑦」で示されています。

#### B 社会科の授業、1単位時間で実施

総合的な学習の時間としての実施が難しい場合は、社会科1単位時間の授業内で学区内を巡る巡検を工夫して実施することが大切です。巡検の事前・事後の指導や準備は必要ですが、「百聞は一見にしかず」のごとく、通学で見慣れている学校周辺の景観・事象を現地の観察によって気づき発見する喜びや楽しさを体験させるとともに、気付いたことや発見したことについて「なぜだろう？」と考える見方・考え方を養うことをねらいとしています。

巡検を消極的に受け止める先生方の中には「学区内に目立つ地理的事象や歴史的事象がない」と思われている方もいらっしゃるでしょう。しかし人間が生きて社会・地域を形成している限り、事象が皆無ということはないはずです。何かしら生きている・生きてきた証が存在しているはずで、学校周辺を社会科的視点でじっくり観察して歩いてみることが大切です。

例えば、東京都区内の都心への通勤者が多く住む住宅に囲まれた学校では、学区内を巡検し、郵便ポストや自治会の消火器、ごみ収集場の場所を地図上に記録し、なぜそこにあるのかを考えたり、マンホールのふたや自動販売機を調べて地図上に記録し、その種類や分布から傾向性を読み取ったりする活動をした事例があります。

また、都心のビルが集中する地域では、ビルの階ごとにどのような業種の店や事務所が入っているかを調べ、低層、中層、高層による違いや共通性を見出す活動をした事例もあります。授業者自身が学区内を巡り、何が、どこに、なぜそこにあるのかをていねいに観察することによって巡検の対象とすべきものが見出されるも



のと考えます。もし生徒を校外に引率することが難しい場合は、先生自身が学区内を巡って発見した「？」の場所を動画や写真で記録したものを、生徒に示すことで興味・関心を喚起し、以後の調べ活動を促す工夫も考えられます。

**ポイント③**



学区内をていねいに巡って観察し、「？」を見出すこと

**その四 「巡検」の観察のポイント**

全国中学校地理教育研究会が毎年度末に行っている「全国中学校生徒地域研究発表会(フィールドワーク・イン・ジャパン=F I J)」のスローガンは「?から!へ」です。地域の事象を観察し、不思議や疑問に思ったこと(「?」)を調べて、なるほど(「!」)と納得する答えをみずから探究する活動を重視しています。巡検における最大のポイントは、この「？」を見出すことです。地域を巡れば事象・事実が目に入ります。地形(台地・低地、崖、坂、丘陵、河川など)、水田、畑地、植生、寺院・神社、石碑、道路、鉄道、店舗、工場、ビルなどは、地域の自然や歴史、地域の人々の営みに関わる事象です。これらの事象から

- ・なぜ、ここに河川が流れているのか。人々の生活とどのように関わっているのか。
- ・台地の上と低地とでは、どのような違いが見られるのか。なぜ違いがあるのか。
- ・この寺院・神社はいつ頃からここにあるのか。人々の生活とどう関わっているのか。
- ・学校前の道路は他の道路と比べて直線的で広いのはなぜか。いつ頃造られたのか。

等々の問いが浮かんできます。

このような一般的な問いに対して、他の地域では見られない「あれ?」と思わせる事象は、観察者の深い「？」を引き出します。その一例を紹介します。



写真1 神保町の本屋街



写真2 田原町の仏具店街

東京都千代田区<sup>じんぼうちょう</sup>の神保町の本屋街(写真1)と台東区浅草・田原町<sup>たはらまち</sup>の仏具店街(写真2)には共通の特色が見られます。古書店と仏具店はどちらも道路を挟んだ南側に集中しています。なぜ、この場所に古書店、仏具店が集中しているのでしょうか。また、なぜ、南側に集中しているのでしょうか?



図1 神保町周辺の地図(国土地理院「地理院地図」より作成)

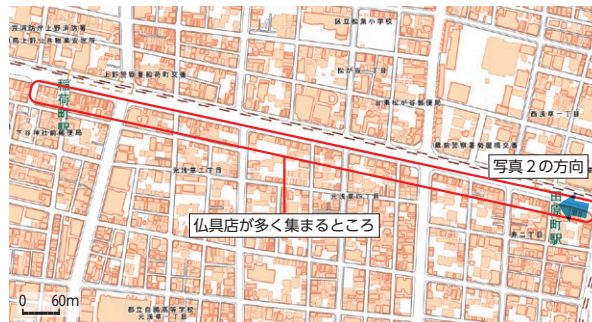


図2 田原町周辺の地図(国土地理院「地理院地図」より作成)

いずれの街も実際に訪れてみると、古書店や仏具店が軒を連ねている様子がよく実感できます。

**ポイント④**



その場所の「なに?」「なぜ?」を見出すこと

上記の問いへの回答は、次号で掲載します。皆さん、考えてみてください。

次号では、巡検の事例を紹介します。

(参考文献)

- ※1 日本地誌研究所(1973)『地理学辞典』二宮書店
- ※2 日本地理教育学会(2006)『地理教育用語技能事典』帝国書院
- ※3 松岡路秀他編(2012)『巡検学習・フィールドワーク学習の理論と実践』古今書院